

## 教育プログラム・コースの概要

大学名等	名古屋大学大学院医学系研究科（総合保健学専攻）						
教育プログラム・コース名	次世代がん医療コース「がんTHPコース」（インテンシブ）						
対象職種・分野	看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、薬剤師、医学物理士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、心理士等 (大学院正規課程 次世代がん医療「がんTHP」コースの対象とならない者)						
修業年限（期間）	1年6か月						
養成すべき人材像	がん診療に従事する専門職であり、多職種連携による集学的ながん治療・ケアを経験するがん患者と家族のウェルビーイングを支える様々な医療職及び福祉職。集学的ながん治療・ケアでの各職業役割の高度な相互理解により、インターディシプリナリーモデルによる有機的ながんチーム医療を推進する中核となる人材。						
修了要件・履修方法	修了要件：がんTHP(Total Health Planner)コースの必修科目4単位、選択科目6単位以上、計10単位以上の単位取得により「がんTHP」として認定する。 履修方法：科目履修生又は単位互換制度による大学院科目として履修する。						
履修科目等	必修科目：がんトータルヘルスプランナー特論(2単位)、がんトータルヘルスプランナー実践論(少人数多職種によるグループワークを含む)(2単位) 計4単位 選択科目：保健学セミナー(2単位)、コンサルテーション論(2単位)、生命倫理学(2単位)、がん看護病態生理学(2単位)、放射線腫瘍学特論(2単位)、医学物理学特論(2単位)、リハビリテーション療法学(2単位)等から4科目8単位以上						
がんに関する専門資格との連携	がん看護専門看護師(日本看護協会)、医学物理士(医学物理士認定機構)、看護師、放射線技師、理学療法士、作業療法士、臨床検査技師、薬剤師、医学物理士、管理栄養士、ソーシャルワーカー、心理士						
教育内容の特色等 (新規性・独創性等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1専攻に5医療職種の大学院生が所属し、かつ、がん看護専門看護師といったがん臨床の高度実践者養成コースを併せ持つ大学院は全国的に稀有である。大学院課程であるかに関わらず、この特色を最大限に活用して、5職種の大学院生と共に相互に交流しながら学ぶチーム医療教育で、医療チームの中で協働し患者中心の医療を推進する能力と、がん患者・家族のウェルビーイングを支える能力を培う(がん医療、がんとの共生)。</li> <li>・少子高齢社会における包括的な支援とがん医療・ケアとの融合により、ライフステージやがんの病期・治療期に依らず地域社会でのがんケアハイパーを包括的に支えるがんTHPとしての能力を培う(がんとの共生)。</li> <li>・講義をオンデマンド配信することで受講しやすい環境を整備する。</li> <li>・法令順守の下で放射線管理区域内で放射性同位元素を取り扱う実験・実習を行うために放射線管理システムを設置する。</li> </ul>						
指導体制	THP運営委員会により運営する。同委員会は本事業の申請に加わる担当教員、本事業で雇用する特任教員、がん看護専門看護師養成の担当教員、医学物理士養成の担当教員により構成する。委員の専門分野は看護科学、医療技術学、リハビリテーション療法学、ヘルスケア情報学など多岐にわたる。						
修了者の進路・キャリアパス	がん診療連携拠点病院等のがん治療の中核的病院、小児がん拠点病院、地域の総合病院や診療所、訪問看護ステーション等のがん患者・家族の療養を支える医療機関、地域包括支援センターや保健所等のがんを抱える生活者を支える機関等の様々な場で様々な時期のがんケアハイパーを支える実践者となり、多職種連携による集学的ながん治療・ケアを経験するがん患者と家族のウェルビーイングを支え、がん医療やがんとの共生を推進する一翼を担う。						
受入開始時期	令和5年9月						
受入目標人数 ※当該年度に「新たに」入学する人数を記載。 ※新規に設置したコースに限る。	R5年度	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	計
		5	5	10	10	10	40
受入目標人数設定の考え方・根拠	都道府県内の5つのがん拠点病院や地域でがん患者・家族を支える関連機関にがんTHPコースを修了した何らかの専門職があり、第2次医療圏内でアクセスできることを目標に、今後6年間で30人以上を養成する。少人数多職種によるグループワーク演習を行うため受け入れ人数に上限を設定する。						